

救急医学科に通院中または通院歴のある患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、診療後の診療情報等を使って行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とした生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。なお、この臨床研究は倫理審査委員会の審査を受け、研究方法の科学性、倫理性や患者さんの人権が守られていることが確認され、研究機関の長の許可を受けています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

《研究課題名》上腕骨遠位骨幹部骨折に対して PHILOS Long Plate を逆行性に用いた症例の治療成績

《研究機関名・研究責任者》 関西医科大学附属病院 救急医学科・病院助教 尾上 敦規

《研究の目的》上腕骨骨幹部骨折には髄内釘を用いた手術で骨癒合が得られやすいが、腱板への侵襲の問題や、遠位骨幹部での骨折の際には固定力が懸念されるなどの問題がある。そこで今回、当院で手術加療を要した上腕骨遠位骨幹部での骨折に対してSynthes社 PHILOS Long Plateを近位遠位を反転させて使用し骨接合術を行うことで良好な骨癒合が得られたため有用性を明らかとする。

《研究期間》承認日から2022年12月末日

《研究の方法》上腕骨遠位骨幹部骨折に対して PHILOS Long Plate を逆行性に用いた症例の治療成績

●対象となる患者さん

2012年4月1日から2021年12月末日の間に当院でPHILOS Long Plateを反転させて用いて手術を行った上腕骨遠位骨幹部骨折の方。

●研究に用いる情報の種類

- 1) 情報：臨床所見（年齢、性別、受傷部位、骨折形態、骨折部遠位端から肘頭窩近位端までの距離）、手術関連（遠位骨片へのscrew挿入本数）、術後経過（骨癒合期間）

《この研究に関する情報の提供について》

この研究に関して、研究計画書や研究に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

《この研究での診療情報等の取扱い》

お預かりした診療情報等は既存の仮名加工情報とし、患者さんの氏名や住所などが特定できないように安全管理措置を講じたうえで取扱っています。

《本研究の資金源・利益相反について》

この研究は外部の企業等からの資金の提供は受けておらず、研究者が企業等から独立して計画して実施しているものです。したがって、研究結果および解析等に影響を及ぼすことは無く、患者さんの不利益につながることはありません。また、この研究の研究責任者および研究者は「関西医科大学利益相反マネジメントに関する規程」に従って、利益相反マネジメント委員会に必要事項を申請し、その審査と承認を得ています。

*上記の研究に利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

《問い合わせ先》

研究責任者 関西医科大学附属病院 救急医学科・病院助教 尾上 敦規

〒573-1191 大阪府枚方市新町 2-3-1

電話：072-804-0101（代表）（PHS：56435）